

!!!! 今月の SpotLIGHT

嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて毎月紹介していくコーナーです。今月はこの方です。



第3分遣隊 アームストロング実験室品質管理官

なかま ふくかず

仲間 福和さん



FUKUCAZU
NAKAMA

Q1. あなたの職種と仕事の内容をお聞かせ下さい。

現在、quality assurance officerつまり品質管理官という仕事をしています。この実験室に勤めておよそ18年です。当初同じ部隊内で化学分析職をしていました。この部隊はおよそ16名の隊員と日本人従業員が5名います。大変小さな部隊ですが、行政班、コンサルタント班、及び分析班の三つの班からなっています。施設隊の環境事務所あるいは他の在日米軍基地や韓国にある米軍基地などから依頼を受け、化学物質の調査並びに分析をし報告書をまとめます。自然科学系の仕事でその範囲は放射線学、疫学、環境、公衆衛生等に及びます。日本の環境衛生研究所の職種に類似しています。

(写真全て、米空軍：ダーネル・キャネディ二等軍曹撮影)



Q4. 本土出張もあると伺いましたが、仕事の内容を出張をお聞かせ下さい。

化学物質の中にはholding timeつまりサンプルの保持時間が限られているものがあります。時間の制約があるため嘉手納基地に送ることができない物質など、企業の運営する分析研究所に依頼することがあります。空軍の委託契約ですが、それら企業の分析研究所の品質管理が空軍の基準に見合っているかどうかなどを確認するために訪問することがあります。

Q6. この仕事におけるやりがいをお聞かせ下さい

私は、米軍や日本政府は子々孫々に良いもの、資産を残そうと努力していることを感じます。私もそれに何かわるものとして、微力ながら協力していることだと思います。

Q7. 難しい点、課題は何でしょう？

限られたマンパワー、予算、時間のなかで、やらなければならないことがたくさんありすぎる、ということだと思います。この部隊が以前クラーク基地にあった当時10数名の化学職がいたそうです。こちらでは、3人でその分野の仕事をこなしています。また仕事のうえで、倫理上の中立を保つことを心がけています。

Q8. アメリカ人と働く環境において気をつけている事、気づいた事柄があれば

アメリカ人、日本人だからというわけでなく、働く仲間として感情を害しないよう協力して仕事をすることが大切です。この部隊に配属されてくる軍関係者は高い学歴を持っている人が多く、幹部のほとんどは修士号、あるいは博士号を持っています。軍人らは高い効率性をうみだす方法や手段に対して関心が高く、対応も柔軟です。

Q9. 同じような職種に就こうと考えている方へのアドバイスは

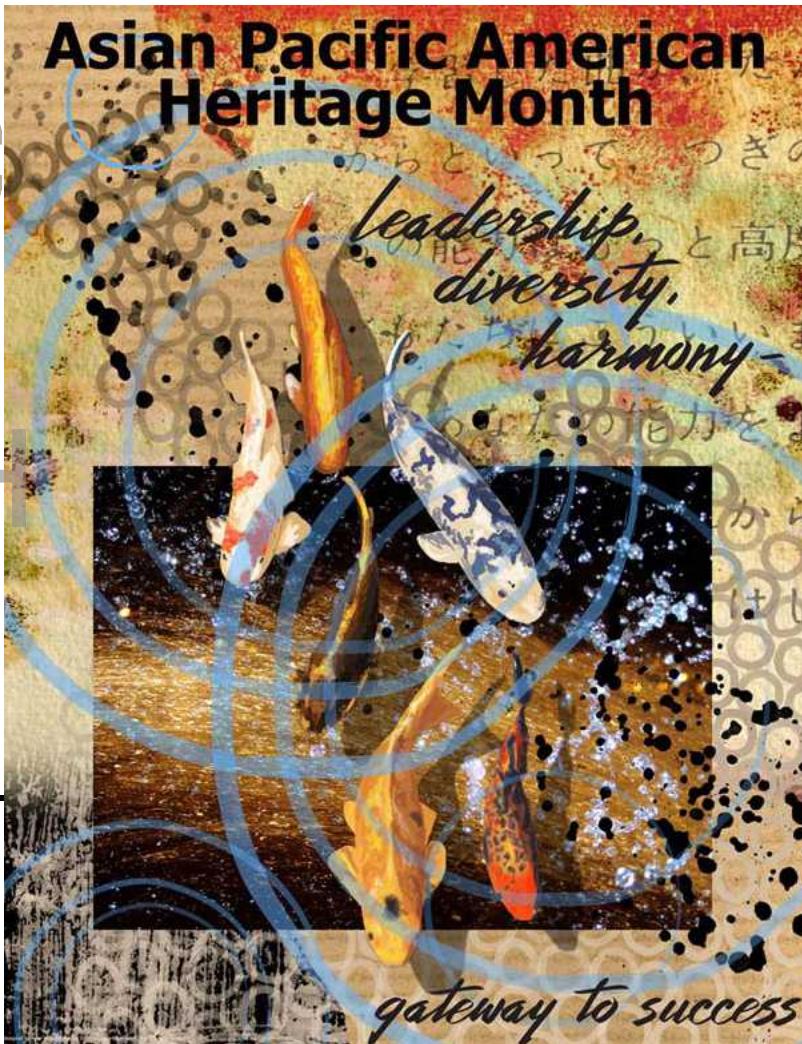
大学4年生卒が必要だと思います。私自身は修士号を持ち、現在博士号取得をめざしています。このような仕事を目指す方は大いに歓迎です。そのときは、大学で理工学をしっかり勉強して欲しいです。もちろん英語も。

DET 3 ARMSTRONG SpotLIGHT

ASIAN PACIFIC AMERICAN HERITAGE MONTH

5月の伝統文化行事

第18航空団広報局



米国社会が、多民族・多人種・多文化であることはよく知られています。移民社会であるがゆえ、さまざまな面で多様性を持った社会へと形成されました。そういう背景を反映して、5月はアジア太平洋地域から米国に移民し貢献した人々の功績と伝統を祝福する月(Asian Pacific American Heritage Month)として、米国議会により公式に承認されています。1978年当初米国議会で定められた祝福期間は5月の最初の1週間でしたが、1992年には5月の月全体にすることが正式に定められました。

5月が選ばれた理由には、その月に起こった2つの重要な歴史的な出来事によります。1つは、日本人の移民者が始めて米国に来たのが1843年5月7日だったこと。2つ目は、多くの中国人労働者によって米国大陸横断鉄道が完成したのが、1869年5月10日であったことです。嘉手納基地においても、5月はアジア太平洋地域の人々が米国社会にもたらした歴史的な意義に関して意識を高める期間になっています。周知活動を推進するボランティアらが基地内の売店で、文化的意義を説明したパンフレットを配布したり、昼食会を開催し、ハワイアンダンスを楽しんだりアジア的な食文化を通じて、Asian Pacific American Heritage Monthに対する認識を新たにしました。

ASIAN PACIFIC AMERICAN HERITAGE MONTH

JAPAN AIR FORCE GOODWILL ASSOCIATION (JAAGA)



JAAGA



(写真提供： JAAGA)



日米エアフォース友好協会

第18航空団広報局

第18航空団は様々な団体に支援して頂いてあります。その一つとして、在東京の日米エアフォース友好協会JAPAN AIR FORCE GOODWILL ASSOCIATION (JAAGA)という民間団体があります。5月21日、JAAGA主催の講演会が開かれ、第18航空団司令官ウィリアムズ准将が講師として招かれ、およそ200名の出席者を前に沖縄における米空軍の活動についてお話をしました。

詳しくJAAGAホームページ
<http://www.jaaga.jp>をご覧下さい。

世界約10カ国に基地が所在する米空軍には米本国を含め100以上の基地があります。これらの基地には32万人以上の空軍兵が勤務しており、人事異動も年中行われます。空軍では、転勤のことをPermanent Change of Stationの頭文字を取って「PCS」と呼んでいます。空軍の場合、一部の基地を除いては、家族同伴でのPCSとなります。赴任期間は階級や役職、家族の有無によって異なりますが、平均で2年から4年程度となっています。さて、今回は空軍兵、そしてその家族達がどのようにしてPCSに備えているかを紹介します。

まず、空軍兵は空軍人事センターより新しい勤務先、指定到着日、赴任期間、一緒に同行できる家族の氏名等を記した「オーダー」と呼ばれる辞令書が出ます。このオーダーは転勤手続を進めるにあたり非常に重要な書類で、新しい勤務先への航空券の購入、引越し業者の手配、子供の学校の転校手続等あります。さて、今回PCSに備えているかを紹介します。

通常オーダーが届いてから35日から40日で転勤となります。このわずかな期間にすべての転任手続を済ませます。転任手続では部隊所有の装備品の返却や本人や家族の医療・歯科カルテの転送、図書館の本の返却確認等、30項目以上にも及ぶチェックリストをクリアしなければなりません。各項目を担当している部署を尋ね、その先々で担当者のサインをもらいます。一つでもクリアできない項目があれば転任許可が出ないとのことです。また、これと平行して引越し業者や航空券の手配を行います。

引越し作業は意外に簡単なようで、本人や家族は荷物を洋服等の赴任先で直ぐに必要になる荷物と家財道具等のそうでない荷物に分けるだけで、後は引越し業者がすべて梱包するようです。もちろん引越し費用は軍側の負担ですが、家財道具は、階級や家族の人数、転勤先によって異なり、2,000から18,000ポンド(約900kg ~ 8,000kg)の重量制限があります。制限重量を越えた場合には自己負担となるため、海外に転勤する場合、ほとんどの家庭で必要最低限の家具を運び、残りは本国で軍が契約している民間の貸し倉庫(無料)に預けています。



ペットを飼っている空軍兵がそのペットを転勤先へ連れて行く場合、当然ながら移動手続は本人が行います。飛行機で移動する場合には航空券の購入前に、獣医発行の健康診断書(10日以内のもの)やペットの体重やケージの大きさ等申告が必要となりますが、移動が海外の場合、その国の法律に沿った予防接種等の事前準備が必要です。例えば、日本に犬や猫を連れてくる場合、日本への狂犬病侵入を防ぐため、輸入検疫が必要です。事前準備として獣医によるマイクロチップの装着や狂犬病の予防接種(30日間隔で2回)、農林水産大臣認定施設での狂犬病抗体検査、到着40日前までに動物検疫所への届出が必要です。また、到着時の手続として、検疫所への届出の受理書と輸出国発行

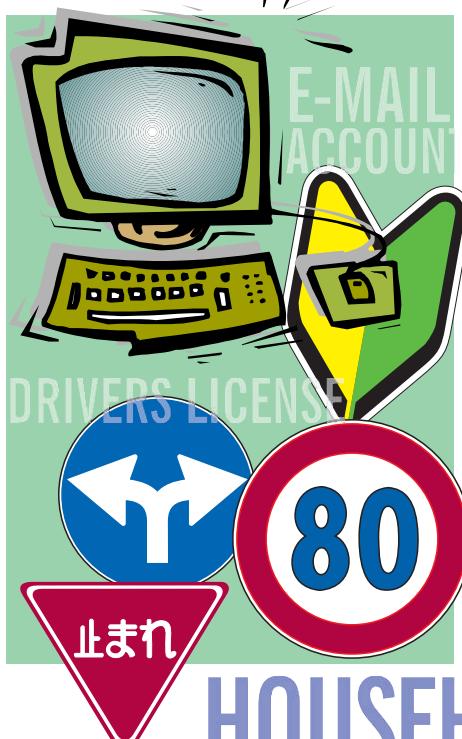
の輸出検疫証明書の提出が求められます。問題がなければ12時間以内に検査が終了します。そのほかの理由で動物検疫所の施設で係留されることもあるそうです。もちろんこれら手続や移動にかかる費用は本人負担となります。



前ページより続き

さて、オーダーが届いて間もなくすると、転勤先の部隊内で指名されたお世話係り（スポンサー）の軍人から連絡がきます。スポンサーは、転勤先の基地や隣接する町の情報、転勤先が海外の場合にはその国の法律や風習、通貨に関しての情報等を予め提供します。また、転勤先で当座の住まいとなる宿泊施設の予約、空港での出迎え、借家探し(基地の外を希望する場合)や車探し等様々なことを手伝ってくれる力強い助っ人です。

ちなみに、空軍兵は「ポートコール」と呼ばれる転勤先への指定到着日があります。その日までに転任地へ到着しなければなりませんが、移動中の有給休暇が許可されています。そのためこれを利用し海外勤務になる場合は本国を離れる前に長期休暇を取って親族に会う空軍兵も多くいます。



さて、引越し業者に運んでもらった家財道具ですが、沖縄に到着するまでに50日から90日を要します。家財道具が届くまでの間は、軍が所有する貸し出し家具や調理器具等（皿、コップ、鍋等）を無料で利用することができます。貸し出し家具は希望があれば赴任中ずっと利用することも可能です。また、基地内外の住宅を問わず冷蔵庫や洗濯機などの家電製品は、軍側より無料で貸し出され、壊れたりした際の修理も軍側が無料で行います。

転勤先に到着すると早速、郵便私書箱の申し込み、Eメールアカウント設定、立ち入り制限区域パスの発行の申請等こちらも30項目以上の手続が待ち構えています。到着して一週間以内に本人と家族を対象にしたブリーフィング（説明）を受けることが義務づけられています。嘉手納基地の場合、通常の情報管理、テロ対策、雇用機会均等の内容に加え沖縄の歴史・文化、簡単な日本語の会話、日本の法律、交通安全等を丸一日かけて受講します。子供がいる兵士は、この説明を受けている間、基地内の保育施設を無料で利用できます。

これら手続に加え、日本での運転免許取得のための特別講習、車の購入、住宅賃貸の手続きを平行して行い、ほとんどの場合一ヶ月以内に済ませます。基地の外の貸住宅を希望することも可能で、軍側のハウジングオフィスが認定した貸し住宅であれば契約を結ぶことが出来ます。基地の外に住む場合、軍側から住宅手当（階級によって異なる）が支給されますが、電気・水道等の公共料金は自己負担となります。



人事異動は年中ありますが、ピーク時は6月から8月です。やはり、子供のいる家庭の負担をなるべく軽くするため、学校が夏休みの期間中に集中します。（米国の学年度は9月頃始まり6月半ばに終了）転勤シーズンのピークを迎えることから嘉手納基地でも多くの引越し作業の光景を目にするでしょう。

